

課題への対応案イメージ

【案1】 調査票甲による調査で結果精度の向上を図る

平成20年住宅・土地統計調査

平成25年住宅・土地統計調査

【乙調査対象世帯に配布】

【甲調査対象世帯に配布】

【乙調査対象世帯に配布】

調査票乙
(約50万世帯に配布)
甲調査事項

調査票(甲)
(約300万世帯に配布)
甲調査事項
現住居以外の土地
所有の有無

調査票乙
(約50万世帯に配布)
甲調査事項

調査票乙
(約50万世帯に配布)
乙調査事項
区画ごとに把握
1 区画目
2 区画目

調査票乙
(約50万世帯に配布)
・所有区画総数
+
・代表する
1～2区画を把握

※乙調査事項のうち、「現住居以外の土地所有の有無」を甲調査対象世帯に配布(新規調査事項扱い)

※上記新規追加に伴い、「現住居以外の土地所有の有無」に係る結果推計に必要なベンチマークを得られる等の理由から、乙調査にて把握する区画は1～2区画のみとする。

- 現住居以外の土地所有の有無に係る結果表章範囲の拡大が可能
- 乙調査の結果精度の向上を期待

【甲調査対象世帯】

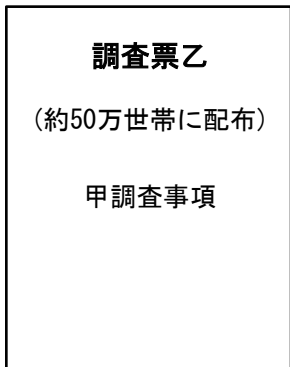
- 甲調査対象世帯では調査事項が純増することになり、記入者負担増

【乙調査対象世帯】

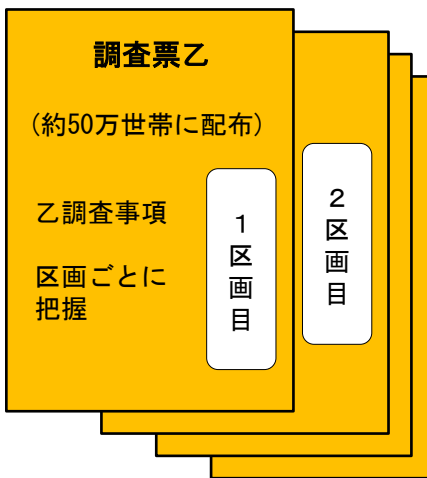
- 世帯の忌避感は大幅に緩和(記入者負担が軽減)
- 記入状況の改善を期待
- 2組目以降の乙調査票の追加配布が不要となり、事務が効率化

【案2】区画ごとの把握等を廃止し調査票を簡略化

平成20年住宅・土地統計調査

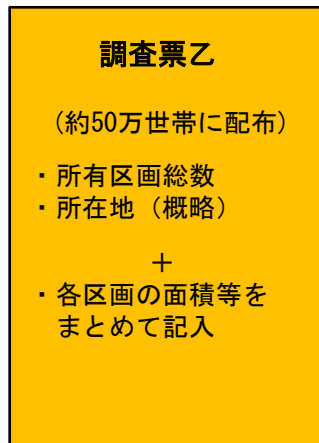


+

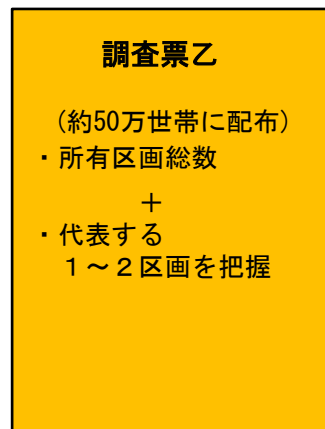


平成25年住宅・土地統計調査

【パターン①】

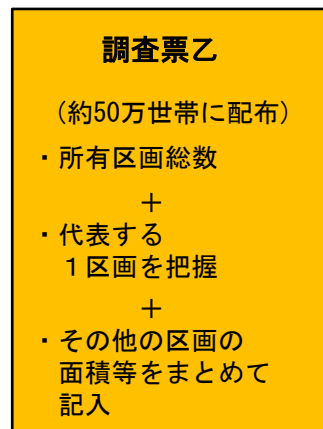


【パターン②】



or

【パターン③】



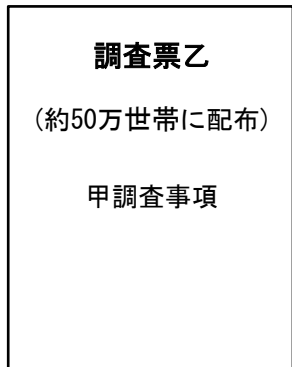
- 世帯の忌避感は大幅に緩和
- 記入状況の改善を期待
- 2組目以降の乙調査票の追加配布が不要となり、事務が効率化
- 複数区画を所有している場合は、所有区画総数に基づき推計するため、結果利用(分析)の面で影響が考えられる。

※ 平成20年調査では、
1区画目使用率：約 85.6%
2区画目 " "：約 10.7%
3区画目 " "：約 2.6%

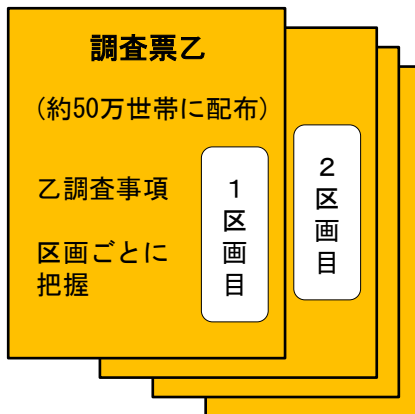
※乙調査の甲調査事項部分は従来どおり

【案3】調査事項の整理

平成20年住宅・土地統計調査

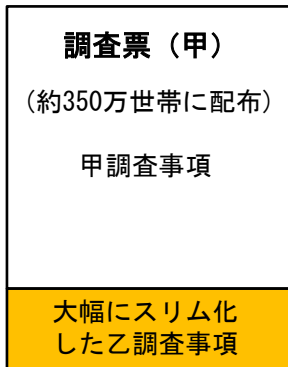


+



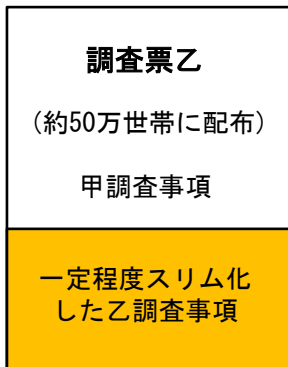
平成25年住宅・土地統計調査

【パターン①】



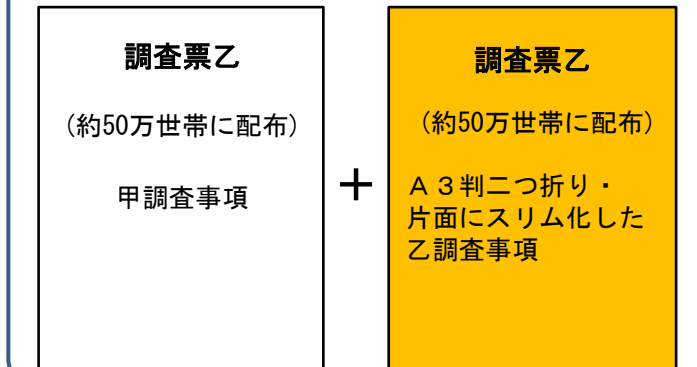
- 甲乙の区別なく1種類の調査票にて調査可能
(記入者負担は大幅に軽減)
- 乙調査事項の大幅な整理が前提
- 対象世帯数が約50万から約350万に増加することに伴う結果精度の大幅な向上を期待
- 世帯の忌避感の大幅な緩和
- 記入状況の改善を期待

【パターン②】



or

【パターン③】



- 乙調査事項の一定の整理が前提
- 世帯の忌避感の大幅な緩和
- 記入状況の改善を期待

※ 記載の世帯数はいずれも平成20年調査結果に基づく想定値(平成20年調査を除く)